IV-JAPAN

NEWS【NO.13】2011.1.31 発行

＜目　　次＞

1ﾍﾟｰｼﾞ…　池田敏秀副代表理事就任あいさつ
2～3 ﾍﾟｰｼﾞ…JICA事業報告、訓練所視察、その他
4ﾍﾟｰｼﾞ…ラオス・スタディツアー
5ﾍﾟｰｼﾞ…外務省・日本NGO連携無償資金協力事業開始
6ﾍﾟｰｼﾞ…学校建設の記録
7ﾍﾟｰｼﾞ…奨学金授与数の記録、その他
8ﾍﾟｰｼﾞ…タイ・ニュース
9ﾍﾟｰｼﾞ…幸子のラオス便り
10～11ﾍﾟｰｼﾞ…お便り紹介
12 ﾍﾟｰｼﾞ…寄付者一覧

『副代表理事就任にあたって』　池田敏秀

～2010年10月よりIV-JAPANの理事に就任しました～

“ うかつに即答する”、私のいつものパターンだが、会社をリタイアしてもこのクセは直りそうにない。でもちっとも苦痛ではない。あとからいろいろなことが起こるが、何とかなるし、楽しいし、結果良しで終わることが多い。きっと周りに恵まれているのだと思う。

最初は十年前、まだ化粧品会社の現役だったが、やたら難しい哲学のセミナーで会った冨永代表に「化粧品会社に居るのならば美容コースを手伝え」と言われて撃沈される。それから長いおつきあいが始まり、もうビエンチャンには７回も行った。昨年ラオスの田舎町で開業した美容コースの卒業生の仕事ぶりを見たが、感慨深いものがあった。そして今度の理事就任。私ごときでいいのかと迷う時間もなく、2度目の撃沈。「なるようになるでしょう」ではあまりに無責任だが、慎重に身構えても私の場合結果は同じ。心意気とアイデアとユーモアで突き進むことにする。嫌いなパクチーを食べる訓練もしようかと思う。

百姓が本職で、執筆が副業という身で何ができるかを考えると、広報とか催しものの企画などをさせてもらえればありがたいと思っている。それはＩＶをきれいに飾ることではなく、あくまでラオスの若者を主役にした泥臭い活動だと思っている。しかしそのベクトルは「与える」「教える」から「考えさせる」「提案させる」に変える時期に来ているような気がする。

―冨永代表が NHK ラジオ深夜便リポーターに！！―　　2 月 11 日深夜放送開始

当会代表冨永が『ラジオ深夜便』アジア（ラオス担当）リポーターに依頼されました。
ナマ放送で、持ち時間は８分～１０分と結構長く、３カ月に１回程度、土曜日の午前０時台（日本時間）に放送され、初回は２月１１日（金）の深夜ですので冨永の放送は１２日（土）０時頃。視聴者は深夜にもかかわらず全国で２００万人にもなるそうで、皆様ももしまだ就寝時間にならないようでしたら是非代表の生の声とラオスのリアル情報ををお聞きください。

ＪＩＣＡ草の根パートナー事業ヴィエンチャン職業訓練

～３年間事業（2007/6 月～2010/5 月）が終了しました～

2007年６月開始のＪＩＣＡ草の根パートナー事業「ラオス・起業・就業促進強化のための職業訓練プロジェクト」が2010年５月に終了し、ラオスでは5月25日にラオス教育省はじめ関係団体参加のもと完了報告会を開催して、参加者にラオスで初めての当会が発刊した短期職業訓練の教科書（写真）21種を贈呈し、初級・中級コースをヴィエンチャン都教育局にハンドオーバーしました。日本では5月29日にさいたま市桜木公民館に於いて一般の方を対象に事業完了報告会行い、また6月 15日にはＪＩＣＡ地球ひろば（東京・広尾）に於いて完了報告を行いました。

本事業は無職あるいは技術がないため就業・起業が困難な女性・青年を対象に、起業するのに比較的投資の少ない職種の３分野の職業訓練を実施しました。３年間で初級コース（２ヶ月間）、中級コース（３ヶ月間）がそれぞれ６期開催され、403人が就学し、その内卒業したのは375人です。上級コース（６ヶ月間）は2010年5月で６期途中まで開催され、121人が上級に進級し、9月に99人が卒業しました。上級コースは実践が主のオン・ザ・ジョッブ・トレーニングのため、職が見つかると中退していく訓練生も多いです。上級コースは３年後にハンドオーバーの予定で、現在も当会により運営されています。援助とは被援助国が自立していくために手助けするものですからいつまでも日本や当会が関わるのは良くないことですが、いつハンドオーバーするか、ハンドオーバーしても１００％引き上げるのではなく徐々に自立できるように見守り、必要なら継続支援することも大切です。ハンドオーバー後は全く機能していない事業も身近に見受けられます。ハンドオーバーの時期を見定めるのも身近に事業を協働して初めて分かります。

ラオスの美容事情 - 冨永幸子の余談–

ＩＶ－ＪＡＰＡＮの美容職業訓練コースにはほぼラオス全土からの参加者がいます。2008 年に訓練生寮が完成し、無料で宿泊でき、さらに寮生にはＩＶ奨学金を供与することから地方の訓練生が増加しました。初級コースの入学式ではいかにも “ 田舎の子” という感じの若い娘さんたちが５ヵ月後の中級コース卒業式には “ 都会の子” に大変身します。調理コースや縫製コースの訓練生はうらやましげにバッチリメークの美容コースの同級生を見ています。ラオスの女性は髪をあまり切りません。結婚式で花嫁が結う“ ガオポーム” というラオス伝統のお団子ヘアースタイルは髪が長くないと結えませんので若い女性は髪を切りたがりません。それで髪をファッショナブルにするにはヘアーカラーやハイライトをして色で流行を追います。ヴィエンチャンの若者は男子も含めて茶髪を多く見受けます。又、ストレートパーマはアジアで大流行しています。ロングヘアーにはストレートパーマが良く合います。余談ですが、10 年近くご支援をいただいている資生堂の方がＩＶ－ＪＡＰＡＮを支援するときに「ラオスで商売は考えていません。既にタイでストレートパーマの爆発的流行で儲けさせてもらっていますから」といっていたのを思いだします。私が初めてラオスに来たのは 1994 年ですが、そのころの新聞に「エンターテイナーの服装規定」が掲載されてビックリした記憶があります。歌手や舞踊家の女性は伝統的な服装をすること、ミニスカートなどの肌が見えるものはいけない、男性も伝統服か紳士服を着用すること、茶髪や長髪は禁止等々。今もこの規定が生きているか定かではありませんが、今で

はエンターテイナーでなくても普通の人が肌を見せるドレスや茶髪は一般的です。これも余談ですが、1998年にアメリカ国籍のラオス難民で有名な歌手が始めてラオスでコンサートを開催しました。娯楽の少ないラオスでしたのでコンサートに行きましたが、ラオスのシンを着て彼女は歌っていましたが、最後のステージではショートパンツにロングコートを羽織って登場して観客をアッーと驚かせました。翌日偶然うどん屋で彼女と一緒になりましたが「小さな抵抗をしたのよ」と笑っていました。
ところで卒業生の美容院では髪の施術よりフェースマッサージで稼いでいるほうが多いとのことです。私が毎週利用していたボディマッサージ嬢があるとき１ヶ月お休みしますと言います。1ヵ月後の彼女の鼻は高くなって、タイのウドンタニ県で同僚たちと一緒に高鼻手術を受けたのだそうです。その後彼女はお客さんの指名が増え、おまけにお婿さんも見つかり大喜びでした。ちなみにお婿さんには内緒で通すとのことでした。私の親しい友人たちにも高鼻手術や皺取りをしている人が幾人もいます。卒業生の美容院を利用している友人がいて、卒業生から、○○姉さんの耳の後ろに手術跡があるというので皺取りが偶然分かりました。私の事務所の職員もあるとき顔が赤いので聞いたら、そばかすを取ってもらったというのです。世界中どこでも「きれいになりたい」と思うのは同じなのですね。そんなわけか理美容訓練コースはいつも応募者がいっぱいです。

国連 UNODC と協働して

本プロジェクトの第６期に国連麻薬犯罪事務所(UNODC)の依頼で「ソムサンガ麻薬患者リハビリセンター」の模範患者３名を受け入れました。彼らは将来トレーナーとなってソムサンガで職業訓練を行い患者の社会復帰を手助けするためです。縫製の訓練生は２ヶ月間の初級コースの途中でいなくなり、理美容訓練生は無事初級コースを卒業しましたが、中級コースには現れませんでした。調理訓練生は中級も卒業し、皆も期待して上級コースへ進級したのですが、途中からドラッグを使用し始めたためソムサンガへ帰しました。このように全員が逃げてしまい国連もがっかりですが、ドラッグに染まった患者の社会復帰は本当に難しいです。

岡田克也外務大臣（当時）、シンガポール財務大臣夫人訓練所視察

昨年７月25日に日本の NGO を代表して IV-JAPAN を含めた２団体を岡田外務大臣が訪問視察されました。IV ラオス事務所では２回の日本大使館事前セキュリティチェックに時間を取られ、おおわらわでしたが、当日は冨永代表が事業の説明等行い、訓練生が作ったおはぎを美味しそうに試食され、大臣も大変関心を持って質問も多く、予定時間を超えて熱心に視察されました。（左写真）

昨年３月シンガポール財務大臣夫人ジェーン・イトギ・ターマン氏視察（右写真前列中央）；ジェーンさんは父親が日本人、母は中国人、夫はインド系シンガポール人だそうで、ロンドンで法律を教えていた弁護士です。大変聡明で美人で、同じ日本人としてとても誇りに思いました。と同時に日本人も国際的になったものだと感じました。ラオスに居ると日本の様に両親が日本人というのが当たり前の感覚は薄くなりました。今後シンガポールから専門家の派遣や交流を続けたいとの事です。

2010年度ラオス・スタディツアー

IV-JAPAN 訓練所訪問　　中村　礼子

凱旋門の前で(ヴィエンチャン)

私達ハッピー旅行会のメンバー11 人は、11 月 18 日ラオスの首都ヴィエンチャンを訪問しました。この旅行会は毎年 1 回皆で相談し合って目的地を決め、今までは主に中央アジア方面を旅してきました。
今回はメンバーの数名が冨永幸子氏にお会いする機会があり IV-JAPAN の話を伺い、遷都 450 年になるタートルアン祭りの折に訪ねることを決めたのです。

IV-JAPAN のの職業訓練校は思ったより広い敷地にあり、緑とアイボリーの美しい建物は寮だと聞きました。そこでは若い女性達が就業にむけて新しい知識や技術を習得するため真摯に取り組んでいる様子を見学させていただきました。調理・ 理美容・ 縫製、そのどれもに目を輝かせて勉強している姿に「頑張って」と声援を送りました。私は訓練生にマッサージをしてもらったのですが、丁寧に一生懸命にやって下さる姿にはプロよりも伝わってくるものがあり、その感謝と感動の気持ちを伝えたいのに「コープチャイ(ありがとう)」としか表せずはがゆい思いでした。

最後に調理コースの生徒さん達が作ったお弁当をご馳走になりました。揚げ物に味噌汁そしておいしいラオス米の日本食です。のんびりゆっくりのランチは時間に追われている私達を慰めてくれました。冷たいビールの催促ごめんなさい。

冨永さんにはお祭りで忙しい中私達にも何くれとなくお声をかけに来て下さり、お宅でのラオス料理のディナーにもご招待いただき本当にお世話になりました。「自立できて報酬を得られてようやく援助」という言葉心に残りました。これからの IV-JAPAN の発展充実をお祈りすると共に、微力ながら応援していきたいと思っています。

(原文)

モン族を訪ねて　　横山三重子 (IV-JAPAN 理事)

ラオス・ シェンクワンは乾期である。車は土埃を上げて走る。窓外に目をやると水色の花の群れが至る所にある。何の花だろう (トイレストップの時に見たら野生の忘れ名草だった) 。約 2 時間、車は舗装路を外れ、ダイエットに効果がありそうなくらいバウンドを繰り返しながら進んでいった。「イタッ…」それでも見て！　回りを埋め尽くすヒマワリの花花々・・・。山の上まで群れが続いている。山全体に大きな木が少ないせいだろうかとも思う。車はノーンヘット近くの高地モン族の小学校に着いた。何とそこには村長さんを始め、村人総勢約 200 名近くの人が集まっていた。小学生たちは白いブラウスに赤いネクタイの正装で 2 列に並びウェルカムロードを作って待っていてくれた。手には白い紙に包まれた花束 (カンナ、ヒマワリ、バラなど) 。はにかんだ笑顔で花束を差し出す。「コプチャイライライ」何でしょう？この涙は！　涙が止まらない。感激です。

それからセレモニー、村の現状報告、バーシーの儀式。洗面器に(？)豚の頭、鶏が足を上向きに据えられ、その周りにゆで卵が並んでいる。手の上に卵を乗せ、バーシーの糸を手首に巻き幸福を祈って下さる。優しさが伝わってくる。やがて庭では歓迎の民族ダンスが始まった。微笑ましい。ダンスの後、整列した子供達にささやかなプレゼントをあげる。後列の子は自分の分まであるだろうかと心配顔で身を乗り出してのぞき込んでいる。瞳がキラキラと輝く。そして胸元で手を合わせ「コプチャイ」と小声で言い身をかがめるしぐさがなんとも可愛らしい。

モン族の歓迎の踊りで迎える子ども

心からこの子供達の未来に幸せが多いことを祈らずにはいられない。どんな悪路でも、遠くても、この笑顔に出会えたこと、もの足りて何不自由ない都会生活で改めて無償の「ありがとう」を教えてくれた子供達に"感謝“ のスタディツアーでした。 (原文)

外務省・日本 NGO 連携無償資金協力事業開始

「日本 NGO 連携無償資金協力事業」へかねてより申請中の案件が承認され、2010 年 10 月よりラオスにおいて事業が開始されましたが、それに先だって贈与契約署名式が行われその模様が在ラオス日本大使館ホームページに掲載されました。以下抜粋記事。

日本 NGO 連携無償資金協力・贈与契約署名式

平成22年 9 月 22 日

女性・青少年の収入向上のための職業訓練プロジェクト（第1年次）

日本国政府は、特定非営利活動法人・ IV-JAPAN による「女性・ 青少年の収入向上のための職業訓練プロジェクト(第 1 年次)」に対して、日本 NGO 連携無償資金協力を通じて総額 170,095 米ドルの支援を行いました。9 月 22 日、在ラオス日本大使館で署名式が行われ、大森茂駐ラオス臨時代理大使と、冨永幸子・ IV-JAPAN 代表理事との間で贈与契約の署名が行われました。この事業ではビエンチャン特別市ナーサイトン郡において無職女性・ 青少年（15 歳～40 歳）を対象に職業訓練（調理・ 理美容・ 縫製）を実施します。IV-JAPAN はビエンチャン特別市教育局をカウンターパートとし市内のナーサイトン郡において事業を実施します。IV-JAPAN は 1994 年からラオス国で教育分野の事業を始め、1996 年からシェンクワン県、2001 年からビエンチャン特別市で職業訓練（調理・ 理美容・ 縫製）を実施しています。また、IV-JAPAN は家具製作の職業訓練も実施しており、現在、2,000 人の女性及び青少年が職業訓練を終了し、約 75%が職に就いています。この事業を通して、ビエンチャン特別市ナーサイトン郡の女性や若者の能力・ 収入が向上することが期待されます。日本政府は、人材の育成と開発を、ラオスにおける持続可能な社会・ 経済開発の実現のために優先して取り組むべき分野の一つとして捉えて、継続的に支援しています。

←大森臨時代理大使と冨永代表（前列中央）。後方は IV - JAPAN スタッフ

プロジェクトマネージャーはこんな人

ナーサイトン郡職業訓練プロジェクトを担当させていただきます岩月祐二です。青年海外協力隊としてラオスに来てからすでに12年になります。ラオス南部のチャムパーサックに家内(ラオ人)と子供3人を残し、単身赴任でプロジェクトに専念していきたいと思います。このプロジェクトが模範となりラオス全土に展開される事を期待しています。

（編集部より）岩月氏は「地球の歩き方」のラオス南部担当執筆者でラオスのことをよくご存じです。また、テレビ朝日の「ポカポカ地球家族」にも放映され、氏の明るい人柄とラオスに馴染んでしまっている様子が良くわかります。元気のいい声と大きな体格でラオス事務所のムードメーカーです。

IV―JAPAN 学校建設の記録

● 現在までにIV-JAPAN が実施したラオス全土における小学校および図書館建設事業の記録を表にしました。

– 学校建設の記録–

	建設年	名	県名	郡名	教室数	寄付者
1	1994	パワー小学校	ヴィエンチャン都	ハットサイホン	6	IV-Japan
2	1999	ヴィエンカム小学校	ヴィエンチャン県	ケオウドム	6	早坂健治
3	2000	シーダムドウアン小学校	ヴィエンチャン都	チャンタブリ	6	ODA/IV-Japan
4	2000	パワー小学校	ヴィエンチャン都	ハットサイホン	図書館	ＩＶ－Ｊapan
5	2001	ヤイ小学校	サヤブリ	トンミーサイ	6	ODA/IV-Japan
6	2003	ナーパー小学校	シェンクアーン	カム	6	埼玉県国際交流協会/WIG
7	2004	タソモ 小学校	ヴィエンチャン都	サイタニー	6	斎藤佳代
8	2005	チャンパー小学校	ヴィエンチャン都	シコタボン	6	埼玉全労済
9	2006	ナーパー中学校	シェンクアーン	カム	図書館	松島精一
10	2006	ノンドン小学校	ヴィエンチャン都	サイタニー	6	ジャパン・ヨガ・カレッジ
11	2007	ニャンカオ小学校	カムアン	タケーク	6	山梨ラオス友好協会
12	2008	ポシタ小学校（新校舎）	カムアン	タケーク	6	山梨ラオス友好協会
13	2008	ポシタ小学校（旧校舎）	カムアン	タケーク	3	山梨ラオス友好協会
14	2009	ノンヴィエン小学校	チャンパサック	チャンパサック	7	三菱化学/早稲田大学
15	2010	パクサマイ小学校	ヴィエンチャン都	サイタニー	6	オールセイフーユニオン
16	2011	タートインハン小学校	サワナケート	カイソーンポムビハーン	図書館	麗澤海外開発協会

ラオス・パクサップマイ村学校建設

～オールセイフーユニオン寄贈～

村民により設置された垣根、後方が校舎

オールセイフーユニオンの山本中央執行委員長(左)
よりヴィエンチャン都教育局へ学校の鍵の手渡し

2010 年 4 月から、ヴィエンチャン中心部より 33 ㎞程離れたビエンチャン都サイタニー郡パクサップマイ村において、オールセイフーユニオン (ダイエーグループ労働組合総連合会)がドナーとなり、小学校建設を実施しました。学校校舎 6 教室 1 棟、トイレ棟および手洗い設備、学校家具の設置を行いました。

学校建設は村民の建設職業訓練を兼ねていますが、村民により電気敷設の準備や垣根の設置等も行われました。また設置家具は IV-JAPAN の家具職業訓練で作製したものです。
村の協力を得て無事建設を終え、１１月９日寄贈式を迎える事ができました(写真右)。

奨学金授与数の記録

● 現在までに IV-JAPAN が支給したタイ、ラオスへの奨学金授与数を表にまとめてみました。

ー奨学金授与数–

授与先 年度	タイ	ラオス	授与先 年度	タイ	ラオス
1990	81	0	2001	120	200
1991	242	0	2002	120	140
1992	566	0	2003	120	124
1993	664	0	2004	60	160
1994	606	0	2005	46	156
1995	434	40	2006	30	167
1996	**501**		2007	40	156
1997	416	100	2008	40	159
1998	200	291	2009	40	147
1999	200	200	2010	40	128
2000	200	200	延べ合計	4, 265 名	2, 368 名

← 1996年除く

太字はタイ、ラオス合計人数。延べ合計はタイ･･･4,265名、ラオス･･･2,368名、1996年のタイ･ ラオス合せた人数501名で**延べ総合計　7,134 名**になります。ひとえに奨学金ドナーの皆様のご協力があってこそと心より感謝申し上げます。2005 年度はかろうじて合計200 名を超えていますがその後は年々ドナー数が減少しています。奨学金希望者は大勢いますが全員に支給は難しく、村長の貧困証明書をもらった者に支給しています。今後も奨学金を必要としているラオスの若者へのご援助をどうぞ宜しくお願い致します。奨学金ドナーは常時募集しております。

運営費寄付ドナーに感謝

アサヌマコーポレーション株式会社　様

麻沼雅海社長(写真右)率いるアサヌマコーポレーション株式会社は、東京都中野区に本社を置く化粧品会社です。古い歴史と若い社員が担う企画、研究、生産はいずれも高い水準を誇り、クライアントと消費者に喜ばれています。一方で中国にも生産拠点を持ち、グローバルな会社としても発展中です。

化粧品の使命はお客様をきれいにすることですが、アサヌマではそのための企業活動も社会に貢献するものでなければならないと考えています。雇用や福祉、フェアトレードなどに深い関心をもって取り組んでいます。

アサヌマは 10 年前、日本の大学院を卒業したラオス人女性を研究員として正規採用しましたが、当時としては画期的なことでした。当会が開催する民族舞踊ショーにも、アサヌマは支援してくれています。

ラオスの若い女性の就業･ 起業に役立ちたいという麻沼社長が、今年もコースの修了式に合わせてヴィエンチャンを訪れ、当会に５０万円の寄付をしていただきましたが、将来はアサヌマ化粧品の素材に訓練生の作品が使われたりヴィエンチャンにそのための雇用が発生したりすれば嬉しいと語ってくれました。

泉　久子　様

20 年近く当会の奨学金ドナーとしてご協力いただいている泉様より、昨年の夏、IV - JAPAN へのご寄付のお申し出がありました。直接ラオス IV 口座へ＄10,000 (当時のレートでおよそ 87 万円) ご送金いただきました。ご本人は齢なので身辺整理のためとおっしゃっていましたがどうぞお元気で、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

タイ・ニュース

カノック女史ご逝去

葬儀の花は国王夫妻と王族から送られたもの

10 月16 日にタイのガールスカウト元会長のカノック女史がお亡くなりになりました。88 歳でした。カノック奨学金の名前の由来の主ですが、1980 年に冨永がタイに滞在した折に大変影響を受けた人です。
当時はヴェトナム戦争終結に伴いタイに大勢の難民がラオス、ベトナムやカンボジヤから流れ込み、タイガールスカウト連盟は難民にタイ語を教える活動をしていました。冨永はタイのガールスカウトたちと難民キャンプにタイ人に化けてもぐりこんだり、カノックさんと一緒にタイの農村に行き地域開発や職業訓練のアイディアをもらいました。
30 年も前のことですが、バンコクは当時信号が 3 カ所しかなく、農村は雨水を瓶に溜めて使っていました。カノックさんは「クンジン」という貴族の称号を国王より戴いていましたが、粗末な農家に泊まるのも平気でした。国会の上院議員も経験し、タイの開発及び女性の地位向上に尽くした人です。1981 年に帰国するときにカノックさんの依頼で奨学金制度を日本で始めました。ご冥福をお祈りいたします。

IV– JAPANタイ財団

ー財団理事長交代ー

14 年間タイ財団の理事長をボランティアでご尽力いただいたラダ理事長が 3 月で交代し顧問に就任します。現在もラダさんはタイガールガイド (スカウト) 連盟の第一副会長兼国際コミッショナーの要職にあり、今後も財団を支えて下さることに変わりありません。タイ理事会では奨学金支給事業だけとなった活動を活性化するため理事を大幅に増員し、事業も色々なアイディアが出ています。3 月の理事会で新理事長も決定する予定です。

ー南南協力(1)・ 刺繍トレーナー招へいー

1990 年に奨学金事業をタイで開始しましたが、その第 1 期生がミシン刺繍トレーナーとしてラオスの IV 職業訓練所に招へいされました。IV の奨学金で中学・ 高校を学校制度外教育課程(短期)で卒業し、北部チェンライ県のガールガイド職業訓練所でミシン刺繍を学び、以後今日までミシン刺繍で生計を立てています。同期生には村議会議員に選出された奨学金生徒もいます。彼らも 30 代半ばになりました。

ー南南協力(2)・ タイ国ウドンタ二職業訓練専門学校との相互交流ー

ラオスのヴィエンチャンからメコン川を渡ると隣国のタイのノンカイ県があり、その先がウドンタ二県になります。1 年前に両県の専門学校から当訓練所に視察団が訪れ、先月ようやくラオスからもウドンタ二県の専門学校を訪問することができました。資機材の豊富さと清潔な環境に感心しました。専門家も多くいて、相互交流を約束して車で約 1 時間半の帰途につきました。タイの豊かさを感じました。

タイ国ウドンタ二職業訓練専門学校を視察

幸子のラオス便り No.19

～ラオスでは色々な体験ができ楽しんでいます～

1． VIP 使用の飛行機体験

ラオスでは２月～３月にかけて焼き畑の煙で視界が悪くなり北部方面の飛行機は欠航が多くなります。そのため昨年の３月のサムヌア卒業生のフォローアップは陸路でシェンクアーンから６時間かけて曲がりくねった山道を車で移動しました。山道も煙で視界が悪く、ちょうどその折ヴィエンチャンから電話が入り、秋篠宮と眞子さんが焼き畑の煙でルアンナムター行きが欠航になりホテルで足止めになっているとの情報。一目見たいという野次馬でロビーは一杯。翌日ようやく飛ぶことができたようです。鶏の原鶏を見る旅だったとか。シェンクアーンからの帰路偶然乗り合せた飛行機は VIP 用の機内仕様(写真)になっていて、その日の朝、秋篠宮ご一行をルアンナムターからヴィエンチャンに送り、その飛行機がシェンクアーンに飛んできたとのこと。機内の前方半分は一般乗客用、後方半分は VIP 用でテーブルのある片側は秋篠宮と眞子さんが座り、反対側のソファーにはお付きの方たちが座ったとのこと。めったにない体験をしました。

２．ラオスハンドクラフト祭り

ソムサワット副首相（右から２番目）を案内する冨永と横田順子新日本大使

毎年 11 月１日から１週間ラオスハンドクラフト祭りが開催され、昨年は JETRO が一部スポンサーになったため、ハンドクラフト協会から冨永にブースのディスプレーを依頼され、テーマはラオスと日本のコラボレーションとのことで、ラオスの紬でできた着物と帯と日本の着物と帯を飾り、いけばなはラオスの国花チャンパーの花と日本の菊を配して活けました。副首相もいらして着物の説明をさせていただきました。

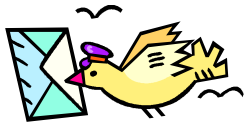
ラオス· ハンドクラフト祭り JETRO ブースの冨永によるディスプレ―

３．新年カウントダウンパーティ

ラオスでは老若男女とも踊りが大好きで、結婚式はじめいろいろな機会にラオスの盆踊り『ランボン』や社交ダンスが盛んです。大晦日は各地でカウントダウンパーティが開かれ、私も毎年参加しています。時にパーティのはしごをし、帰宅が午前２時にもなります。たくさんの友人に恵まれ、招待も多く、私生活でもラオスをエンジョイしています。

新年カウントダウンパーティでサイソンポーン国会副議長とランボンを踊る冨永

お便り紹介



★JAL 月刊誌「アゴラ」掲載記事への反響★

2009 年11 月号に8 ページにわたり、当会と代表・冨永幸子の活動記事が掲載されました。

いつもお世話になっております。このたびは、agoraをお送り頂きありがとうございました。
こんなにラオスの様子が生き生きと伝わる写真とインタビューは初めて拝見したような気がします。特に「起業支援」の話は大変興味深いものでした。
さて、日本では、この夏あたりから経産省とJICAがBOP ビジネスにおける官民連携に本格的に取り組み始めたため 関連シンポジウムが開催され、ＣＳＲ業界は少々熱くなっています。ただし、理解が深まるにつれ、BOP ビジネスにせよ、ソーシャルビジネスにせよ、企業とNGO の連携は難しいということも分かってきました。１つ１つパズルを解くように新しいビジネスモデルを模索しています。冨永代表の活動に比べれば、私など比べようもないくらい姑息ですがもう少し、CSRの世界に居ようと思っています。（2009.12）

三菱化学㈱　　後藤　公位

JAL の雑誌AGORA で、「ラオスで頑張る日本人女性」という事で冨永様の記事を読み、ラオスに携わる身として、非常に興味深く、且つその志に感銘を深くうけていた次第であり、どこかでお会いできないかなと念じていた矢先でしたので、ビエンチャン空港でお見かけした時は、驚くと共に 非常に感激し、プライベートのご様子である事は推測されましたが、不躾ながらお声掛けさせていただきました。SEA Game プロジェクトは、弊社で追いかけていた案件でしたので、幸運にも上手く事が進んだ次第です。下名も今後、ラオスにビジネスを通じて恩返しをしなければと改めて思う次第です。尚、11 月26 日付けのビエンチャン･タイムズ紙に、冨永様の記事が掲載されており、再度ラオスに於ける冨永様の活動に敬意を持ちました。来年、ビエンチャンに出張する機会に、是非ともご挨拶させて頂ければと存じます。日本は、日ごと寒くなってきておりますが、貴地に於かれてお体はご自愛下さい。重ねて、メールのご連絡深謝申し上げます。

三菱商事　　服部

JAL グローバルクラブの会員であることにより昨日送付されたJAL 情報誌AGORA 11 月号の特集に貴女のご活躍の記事が８ページに亘り　取り上げられています。日米学生会議の事も謳っていました。記事を読みますと幾多の困難を乗り越えられ、貴女の思うところを存分に発揮され、確たる偉大な足跡を残されてこられていることを読ませてもらいました。その多大な活動に敬意を表します。貴女が交通事故に会いタイで治療をされた件、貴女より以前報告頂きましたが、AGORA の写真を見ますと貴女の顔が輝いており顔つきも変わってきて非常に穏やかな表情です。これも悟りの境地なのでは！！健康に留意され是非持ち前の明るさと　エネルギー、知恵で益々ラオスの礎になられんことを祈念しております。先般ベトナムに環境経営関連の視察旅行に参りました折ラオスにも立ち寄りたかったのですが。

竹本秀人

主人がJAL 愛好家でダイヤモンド会員ですので毎月アゴラ送ってきます。冨永さんの記事拝見しました。すごいですね。写真もいいし、冨永さんのお人柄の出た記事ですね。ラオスの宣伝にもなってますし沢山の方にラオスを知っていただけてとても嬉しく思ってます。懐かしい方々のお顔も（ルアン君も）載っていて友人達にも見せます。ODA の予算も下りて益々のご活躍期待しています。**高倉昌子**

～東大阪市立英田北小学校児童会より～

☺ 書き損じハガキを多数送っていただきました ☺

国際協力NGO・IV-JAPAN 様

私達、英田北小学校は全員で協力し、「開発途上国」「ラオス」「タイ」他の国の人々の生活の支えになりたくて後期代表委員会が中心となり書き損じハガキを集めました。すると約３００枚集まりました。最初は「１００枚も集まるのかなぁ～！？」ととても不安でした。でもみんなの「困っている人を助けたい」そう言う思いが１つになり、たくさんのハガキを集める事に成功しました。私達は困っている人々を助けるために一生懸命頑張っている国際協力NGO・IV-JAPANさんをとても尊敬しています。これからもどんどん私達も書き損じはがきだけでなく募金などのボランティアにも参加できたら良いなと思っています。これからも貧しい人々のお手伝いをず一っとしてあげて下さい。これからも頑張って下さい。

（東大坂市立英(あか)田(だ)北小学校　後期児童会一同　2010年3月）

これほど沢山の書き損じハガキをお送りいただいたのは初めての事です。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。　IV-JAPAN 事務局

～タイ、ラオス奨学生からの手紙～

１９９０年より始まりました奨学金援助事業もドナーの皆さまのご協力により２０年を過ぎました。心より御礼申し上げます。２００９年度はタイ４０名、ラオス１４７名、合計１８７名に皆さまからの奨学金援助をいただきました。厳しい経済情勢の折、感謝の気持ちでいっぱいです。現地生徒から１年に１度感謝の手紙がドナーの方々に送られてきますが、その中から３通紹介させていただきます。尚、２０１０年度生徒手紙は間もなくお送りさせていただきます。

私の名前はランペット・ジャイエンです。私は学校を卒業できるまで勉強したいと思っていますが、母が受刑者ですので、学校へ通うためのお金も制服もありません。奨学金を頂けましたら一生懸命勉強するつもりです。将来医者になりたいと思っています。
貴方のご親切に大変感謝申し上げます。

（タイの小学校３年生。９歳）

タマポン・タマジャリは良い生徒です。家族は大変貧しいです。収入もあまりありません。彼女は小さな子どもたちの世話をしてくれ、役に立つ優しい娘です。手芸が好きなのでいつも展示会に参加しています。
（タイ・障害児学校生徒。１５歳。先生の所見による。）

IV-JAPAN 関係者の方々に感謝申し上げます。５か月にわたって縫製の勉強をするためのご援助をしていただきましてありがとうございます。この技術は私の生活向上のために役立てたいと思います。
（ラオス・職業訓練生　　１９歳）

第７回　通常総会開催（於：さいたま市立桜木公民館）

2010 年 5 月 29 日（土）に通常総会が開催され、以下の事について審議を行い承認されました事をご報告致します。
・2009 年度　事業報告・決算報告　支出合計　2,078 万円(承認)　　・2010 年度　事業計画・予算　2,999 万円

≪2009 年度事業報告概要≫

1. 日本全国より奨学金ドナーを募り、タイ、ラオスの子ども達と職業訓練生に奨学金（１８７名）を支給し、教育の底上げに寄与した。
2. ヴィエンチャン職業訓練／理美容、調理、縫製（JICA 草の根パートナー事業３年目）：ラオス住民の経済的自立支援のための職業訓練を JICA との契約のもとに実施した。（株）資生堂、タイ OCC 協力事業。（２０１０年５月までの３年間ＪＩＣＡ継続事業）
3. 木工家具職業訓練(東京ウィルライオンズクラブ支援事業）をラオス・ヴィエンチャン都教育省学校制度外教育開発センターに於いて実施した。
4. 建設職業訓練を兼ねた小学校建設（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター/（株）三菱ケミカルホールディングス支援事業）でラオス・チャンパサック県チャンパサック郡ノンヴィエン村小学校建設を実施した。
5. 第 13 回ラオススタディツアー：成人会員の中から９名の参加者を募り、ラオスを通して途上国の実情を知り、当会のプロジェクトを理解してもらうためのツアーを実施した。

♡♡♡♡ カノック奨学金ドナー紹介　（2009/10/1 から 2011/1/31 まで）順不同 ♡♡♡♡

佐藤美津子（15 口)、滝　節子、福永文代（2 口）、佐藤吉秀(2 口)、飯田昌美、田中えいこ（3 口）
込山まち子、宮下ひとみ、キッズ＆ベビー保育園（2 口）、玉寄明美(2 口)、外間邦子、金指五郎（2 口）
金子澄子、宮村　肇（20 口）、小林文子(2 口)、片岡啓子（4 口）、太田榮次（4 口）、亀島裕子（2 口）
ガールスカウト大坂府 61 団（2 口）、古柴睦美、熊野恵一、鈴木利典、ガールスカウト千葉４５団（2 口）
小暮　秩・道子、座安きくえ、蛭間愛子（2 口）、比嘉エリ子、奈良伊世、西条喜子（2 口）、大野　歩・望
大野宏江（3 口）、泉　久子（2 口）、小野寺さとみ（2 口）、小川昭子、小田切智子、根橋淑江、高石順子
松永英子・順平（3 口）、小林愛子、石井有美、野口正晴、春日　曠、伊藤睦子、小林佳代子、中村英一
山口将行・洋子、武藤廣子（2 口）、森　典子、伊藤慶子、菊原享子、入澤恵子、足立毅平、濱口敏行（3 口）
宗像邦司、James A. Cummings、 松茂良興勇（2 口）、渡辺伊久子、羽山陽子、津本蓉子、高見沢啓二（2 口）
ガールスカウト大阪府７３団、近藤利雄（2 口）、伊藤裕子（5 口）、河島一郎、沼田明美、三澤純子（2 口）
上原道子、篠原隆法、塩川悠子（2 口）、塩島輝子（2 口）、鈴木ミチ（3 口）、早坂弘子（2 口）、森田総典
土屋多賀子、土屋祥二、大橋國江（2 口）、廣田秀子、佐藤文子、謝花恵子（2 口）、田村福代、五十嵐香苗、
渡久地澄子（5 口）、嶋美喜子（4 口）、今井京子、賀元澄子、橋本多映子、田中恵子、河口道子、中村征人
上田峯子、又吉ミチ、和田治江、大城恵子、武川貴美子、片山純子、富井伊都子、渡辺幸江、荒井みど里
黒沢恵子、仲村渠寿美子、齋藤加代（3 口）、石黒　進（5 口）、岡庭史子（2 口）、田中兼勝、中村礼子
増田志津恵、斎藤ふみ子、白川誠之、みどり幼稚園みどり会（8 口）、ウィメンズめぐろ有志、利根川恵子

❤運営・プロジェクト費寄付者一覧❤

（2009/10/1 から 2011/1/31 まで。順不同。一万円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

齋藤加代（３３万円）、（株）資生堂（４０万円）、羽鳥雅之（１万円）、大竹千歳(１０万円)
キッズ＆ベビー保育園（１万円）、富士ゼロックス埼玉端数倶楽部（１２万円）、伊藤裕子（４万円）
東京ウィルライオンズクラブ（13 万円）、東京ウィルライオンズクラブ有志一同（１０万円）
渡久地澄子（１万円）、横山三重子（２万円）、石黒　進（１万円）、泉　久子（＄１０，０００）
オールセイフーユニオン（５９３万６，４７６円）、(財)麗澤海外開発協会（１４３万４，５７２円）
(社)倫理研究所(１０万円)、　アサヌマコーポレーション（１００万円）、早稲田大学（２万円）
土屋エミ子（１万円）　　―敬称略―

＜随時サポート会員を募集しています＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します
① 奨学金ドナー　年１口　**12.000 円**以上
② 国際協力費又は運営費ドナー　★個人 年１口　3.000 円以上　★団体及び法人 年１口　10.000 円以上

・申込方法(銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下４桁の明記をお願い致します)
郵便振替　：(口座番号)　00140-5-537168　(加入者名) カノック奨学金
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　(※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。)
(普通)　口座番号:5038052　名義人：(特非) 国際協力 NGO・IV－JAPAN

【特定非営利活動法人　国際協力ＮＧＯ・IV-JAPAN】

日本事務所
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2
シティヒルズ 101
TEL:048-622-8612 / FAX:048-622-8612
E-mail:iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/

ラオス事務所
P.O.BOX 7920 VIENTINE, LAO P.D.R.
TEL/FAX: +856-21-261240
携帯電話；+856-20-55515122
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com